

分配金引き上げのお知らせ

平素は「バリュー・ボンド・ファンド＜為替ヘッジなし＞(毎月決算型)【愛称:みらいの港】」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。さてこの度、当ファンドでは基準価額の上昇等に鑑み、2014年11月6日の第15期の決算におきまして、分配金を40円(1万口当たり、税引前)に引き上げましたことをご報告申し上げます。

なお、本レポートでは、分配金引き上げの背景や運用状況、今後の見通し等についてもまとめておりますので、ご参照のほどよろしくお願い申し上げます。

第15期決算の分配金と基準価額 (2014年11月6日現在)

分配金: 40円 (1万口あたり、税引前)

基準価額: 11,669円 (分配落ち後)

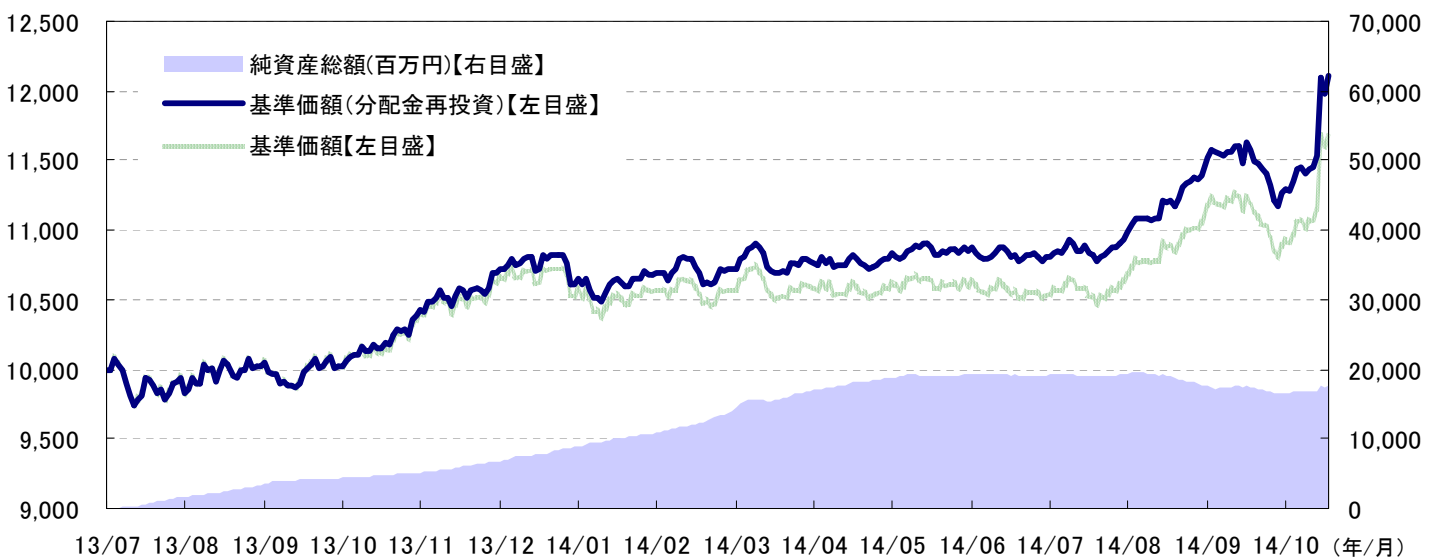
・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

分配金実績															設定来 累計 400円
2013年				2014年											
9月 第1期	10月 第2期	11月 第3期	12月 第4期	1月 第5期	2月 第6期	3月 第7期	4月 第8期	5月 第9期	6月 第10期	7月 第11期	8月 第12期	9月 第13期	10月 第14期	11月 第15期	
0円	0円	30円	30円	30円	30円	30円	30円	30円	30円	30円	30円	30円	30円	40円	

・収益の分配は第3期(2013年11月6日)から行っています。

※分配金実績は、過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

基準価額の推移 (期間:2013年7月31日～2014年11月6日)



・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日を10,000として指数化しています。

・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬控除後の値です。

・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

■基準価額および分配金は1万口当たりです。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通しないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。



三菱UFJ投信

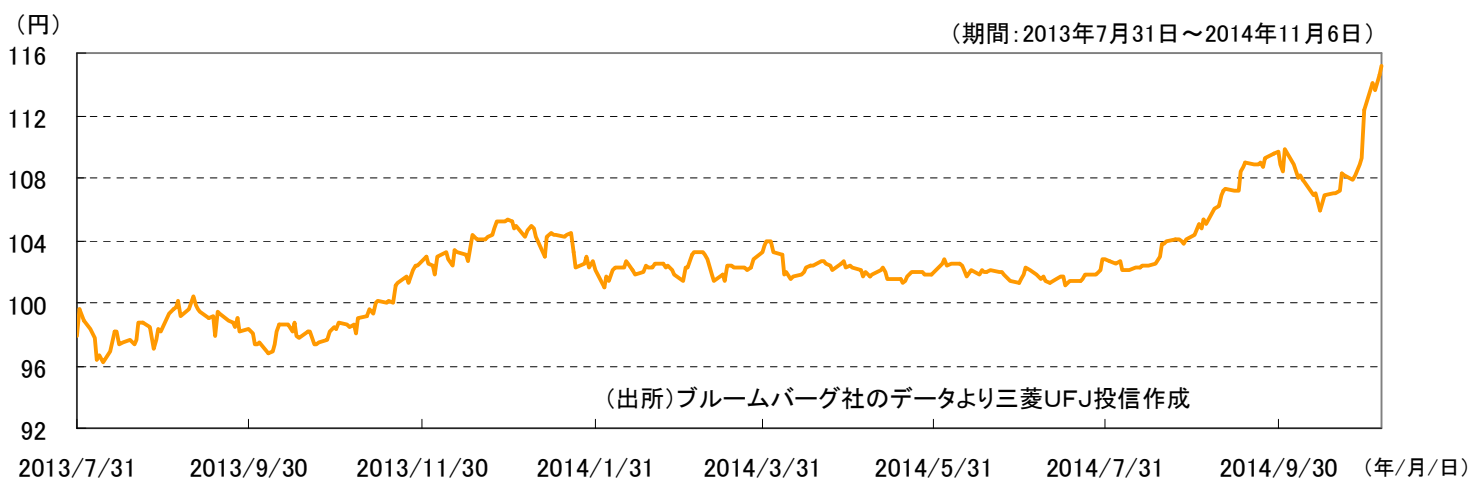
分配金引き上げのお知らせ

分配金を引き上げた理由について

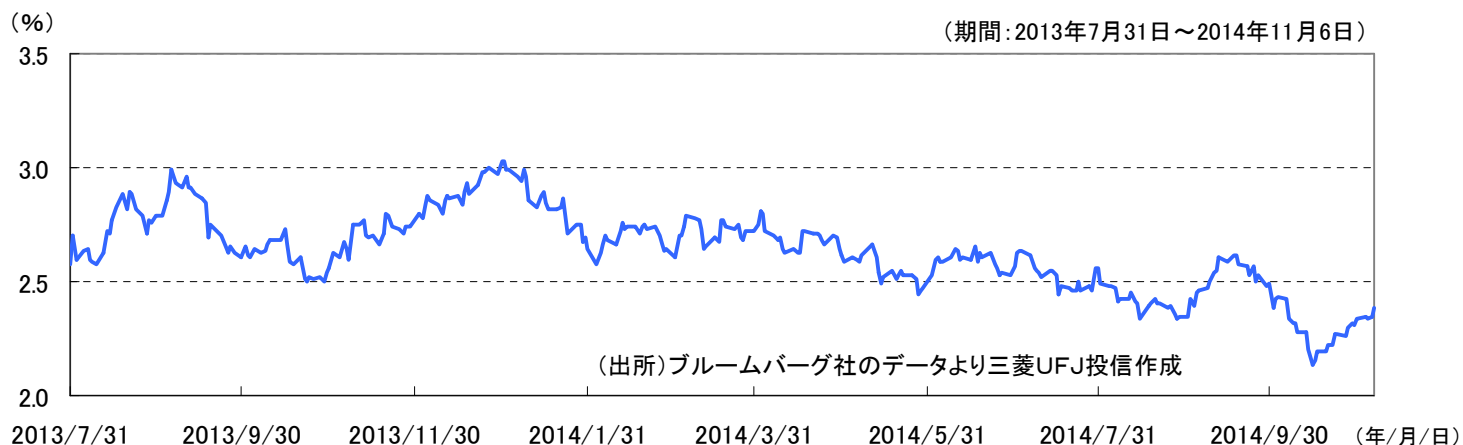
ファンド設定以来、組入債券の値上がり等を背景に基準価額は堅調に推移してまいりました。また、直近において、日銀の緩和姿勢が続く一方で、量的金融緩和終了により米国金利が上昇に向かうとの見通しのもと、為替市場では米ドルが円に対して上昇する展開となり、基準価額は上昇いたしました。当ファンドはこれまで、毎月30円を安定分配としてお支払いしてまいりましたが、上記のような基準価額の水準や、市場環境、分配原資の状況等を総合的に勘案したうえで、第15期決算(2014年11月6日)では分配金を引き上げ、40円としてお支払いすることといたしました。

今後とも引き続き、『バリュー・ボンド・ファンド【愛称:みらいの港】』をご愛顧くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

為替レート(米ドル対円レート)の推移



米国の10年国債利回りの推移



■上記は、過去の実績・状況です。本見通しなしいし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。



三菱UFJ投信

MUFG

分配金引き上げのお知らせ

ファンド設定後の債券市場について

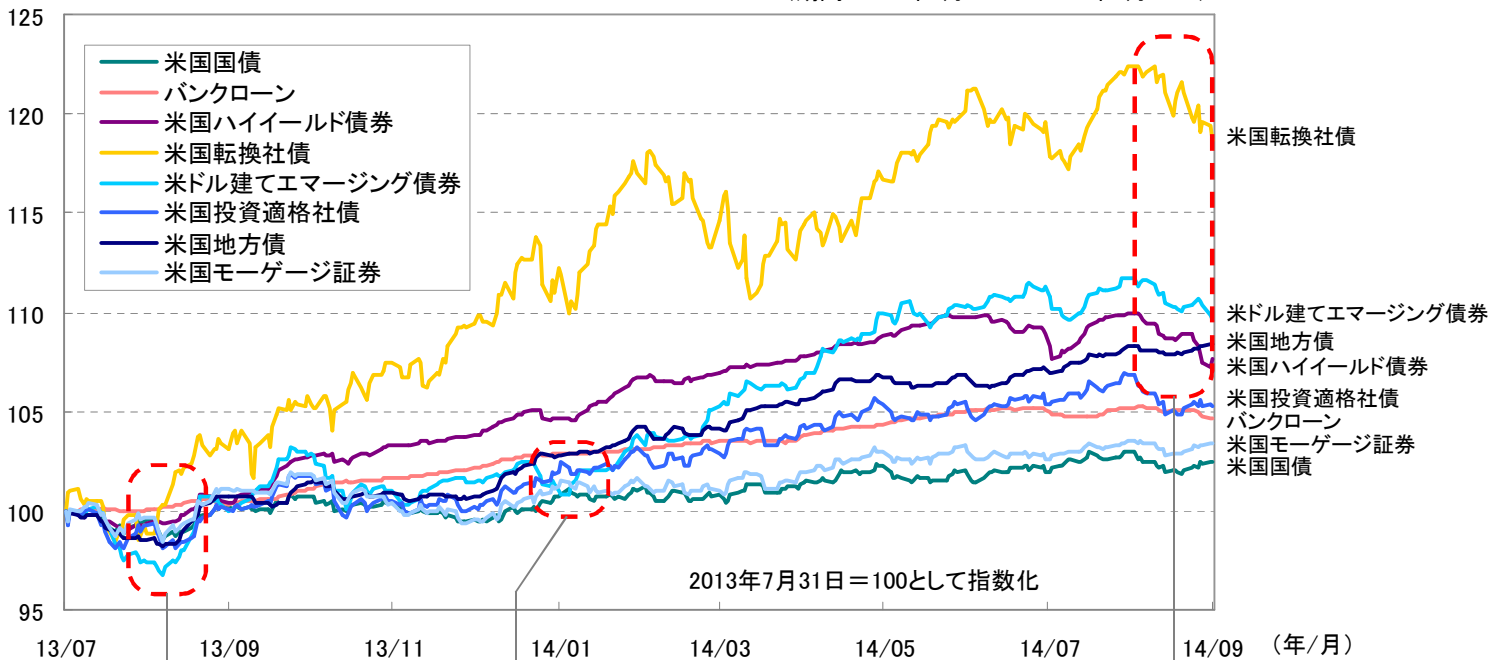
ファンド設定日(2013年7月31日)直後、量的金融緩和の縮小観測から、2013年9月末にかけて米国国債利回りは急上昇(債券価格は下落)し、その後一時低下(債券価格は上昇)したものの年末にかけて再び上昇する展開となりました。しかし、2014年に入ると一部の新興国通貨が急落したことや、ウクライナや中東情勢の緊迫化により地政学的リスクが高まったことなどをを受けて米国国債利回りは一転低下に向かいました。また、ハイイールド債券およびエマージング債券については、一部変動幅の大きい展開となる局面もあったものの、設定から2014年5月までは堅調な推移となりました。しかし、6月以降はイエレンFRB(米連邦準備制度理事会)議長がハイイールド債券の過熱に懸念を表したことから、ハイイールド債券、エマージング債券ともに下落(利回りは上昇)する局面が続きました。

為替については、当ファンド設定直後は1米ドル=95~98円台で推移し、その後は比較的長期にわたり、1米ドル=102円近辺での推移となり、2014年9月末にかけて一時1米ドル=110円に近づく展開となりました。さらに、10月31日の日銀の追加緩和を受け、1米ドル=110円を突破して円安米ドル高が進行しました。

(出所)パイオニア・インベストメンツ社のコメントより三菱UFJ投信作成

各種債券の推移(米ドルベース)

(期間:2013年7月31日~2014年9月30日)



2013年7月
9月から米国が金融緩和を縮小するとの懸念から低格付け債券を中心に価格が下落

2014年1月
アルゼンチンペソの急落を受けて、エマージング債券が下落

2014年9月
リスク性資産から資金を引き上げる動きが強まったことにより、景気回復局面で優位な転換社債、ハイイールド債券等が調整

(出所)パークレイズ社、BofAメリルリンチ社、ブルームバーグ社のデータより三菱UFJ投信作成

■上記は、過去の実績・状況です。本見通しないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
■上記は指数を使用しています。指数については【当資料で使用している指数について】をご覧ください。



三菱UFJ投信

MUFG

分配金引き上げのお知らせ

ファンド設定後の運用戦略について

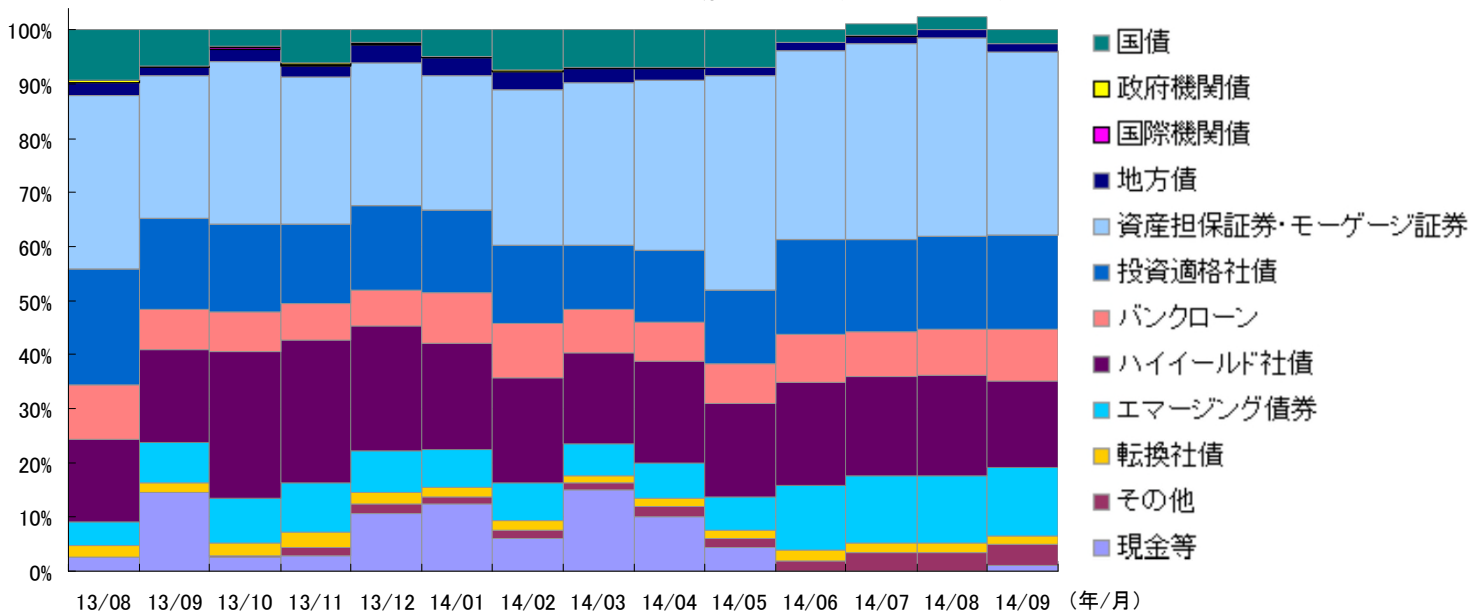
当ファンドでは、外国投資信託を通して実質的な運用を行っています。

債券の運用においては、個別銘柄分析を基本とし、中長期的な観点から魅力的な銘柄の発掘を行いました。設定直後の変動幅が大きくなった局面、金利の上下を繰り返した昨年末、新興国リスクが高まった2014年初を好機と捉え、慎重に優良割安銘柄を組み入れました。また、期を通じて、モーゲージ債への配分を高位に保ちました。これは、米国10年国債の利回りが2.5～3.25%のレンジ内で推移するとの見通しのもと、レンジ内で米国国債が推移する局面で強く、また米国国債対比でもリターンを狙うことができるモーゲージ債を魅力的な投資対象であると判断したことによります。なお、デュレーションは設定以降、4年超の水準から3.4年程度まで短期化させ、債券の価格変動リスクの低減に努めています。

(出所)パイオニア・インベストメンツ社のコメントより三菱UFJ投信作成

債券種類別構成比の推移

(期間:2013年8月末～2014年9月末)



- ・比率は、実質的な投資を行う外国投資信託の純資産総額に対する割合。
- ・債券セクターは、パークレイズ社の分類を採用、分類されていない場合はパイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクによる独自の分類を採用しています。
- ・表示のセクター以外の債券がある場合は、「その他」に分類しています。

上記の表は、原則として実質的な投資を行う外国投資信託「マルチセクターバリューボンドファンドーJPYヘッジドクラス/JPYノンヘッジドクラス」の状況を、運用会社であるパイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インク等の資料(現地月末前営業日基準)に基づいて三菱UFJ投信が作成したものです。

(出所)パイオニア・インベストメンツ社のデータより三菱UFJ投信作成

■上記は、過去の実績・状況です。本見通しないし分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

分配金引き上げのお知らせ

現在のポートフォリオの状況について (2014年9月30日現在)

ポートフォリオの状況は、原則として実質的な投資を行う外国投資信託「マルチセクターバリューボンドファンド-JPYヘッジドクラス/JPYノンヘッジドクラス」の状況を、運用会社であるパイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インク等の資料(現地月末前営業日基準)に基づいて三菱UFJ投信が作成したものです。

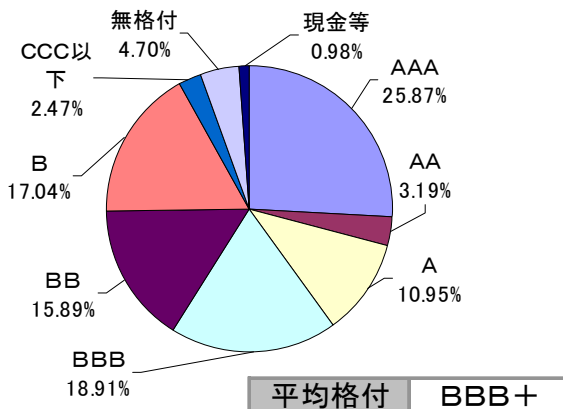
◆ ポートフォリオ特性値

最終利回り	4.25%
直接利回り	4.74%
平均残存年数	7.72年
デュレーション	3.42年

- ・ 特性値は、実質的な投資を行う外国投資信託ベースです。
- ・ 最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・ 直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・ デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・ 最終利回り、デュレーションは債券先物を含めて計算しています。
- ・ 平均残存年数は、各債券等の残存年数を加重平均したものです。
- ・ 原則として、直近の繰上償還可能日を基に算出しています。

(出所)パイオニア・インベストメンツ社のデータより三菱UFJ投信作成

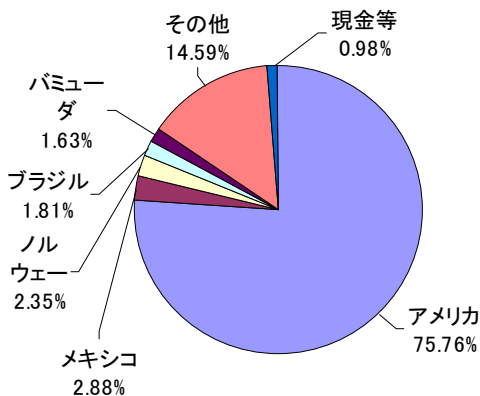
◆ 格付分布



- ・ 実質的な投資を行う外国投資信託が保有する債券等の格付分布を表示。
- ・ 格付分布比率は、実質的な投資を行う外国投資信託の純資産総額に対する割合。
- ・ 格付の表示にあたっては、S&P社、Moody's社の2社のうち最も高い格付を表示しています。
- ・ 上記2社の格付を取得していない場合は、無格付としていますが、パイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクにおいて独自の格付判断に基づき投資したものです。
- ・ 平均格付とは、基準日時点で当該ファンドが保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当該ファンドに係る信用格付ではありません。

(出所)パイオニア・インベストメンツ社のデータより三菱UFJ投信作成

◆ 組入上位5カ国



- ・ 組入上位5カ国の比率は、実質的な投資を行う外国投資信託の純資産総額に対する国別の割合。
- ・ 国名は、バークレイズ社の分類を採用、分類されていない場合はパイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクによる独自の分類を採用しています。

(出所)パイオニア・インベストメンツ社のデータより三菱UFJ投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況です。本見通し不利益分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。



三菱UFJ投信

分配金引き上げのお知らせ

今後の投資環境見通しと運用方針について

足下では、ウクライナ情勢を巡る地政学的リスク、エボラ熱、香港のデモなど、マーケットの不安要素が高まり、変動幅が大きい展開となっています。しかし、米国を中心に緩やかに景気は回復していくという見通しには変更ございません。今後、引き続き、緩やかながらも堅調に推移する米国経済を背景とし、米国FOMC(連邦公開市場委員会)のアンケート結果でも2015年末の予想政策金利は1.375%(中央値)、2016年末は2.875%(中央値)となるなど将来の金利上昇リスクが高まっている環境下、当ファンドではデュレーションは短めの水準を維持する方針です。

一方、米国をはじめとした世界経済の緩やかな成長と世界の金融政策当局による緩和的な措置は、企業の良好なファンダメンタルズと低水準のデフォルト(債務不履行)率をサポートし、クレジットスプレッド(国債に対する上乗せ金利)の縮小が継続すると予想していることから、過去の利回りとの比較においては低水準ではあるものの、ハイイールド債券は依然として魅力的だと考えており、価格変動の大きくなる局面は良い投資機会となると考えております。また、株式市場の堅調な推移も期待できることから転換社債の保有も継続しますが、一方で割高感の増す米国地方債は少しずつ配分を削減する予定です。国別では、米国のオーバーウェイトを継続します。銘柄選択に当たっては、バリュエーション(投資価値基準)を徹底的に分析し、良質な債券等を割安な水準で組み入れることをめざします。今後も、金利サイクルや市場環境の変化等を迅速に捉え、常に魅力的な投資機会の発掘に努めてまいります。

(出所)パイオニア・インベストメンツ社のコメントより三菱UFJ投信作成

＜当資料で使用している指数について＞

【米国国債】シティ米国債インデックス

シティ米国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、米国の国債の総合収益率を指数化した債券インデックスです。

【米国地方債】パークレイズ米国地方債インデックス

パークレイズ米国地方債インデックスとは、パークレイズ社が算出する米国の地方債の値動きを示す代表的な指数です。

【米国モーゲージ証券】パークレイズ米国MBSインデックス

パークレイズ米国MBSインデックスとは、パークレイズ社が算出する米国のモーゲージ証券の値動きを示す代表的な指数です。

【米国投資適格社債】パークレイズ米国コーポレート・インデックス

パークレイズ米国コーポレート・インデックスとは、パークレイズ社が算出する米国の投資適格社債の値動きを示す代表的な指数です。

【バンクローン】パークレイズ米国ハイイールド・ローン・インデックス(パフォーミング)

パークレイズ米国ハイイールド・ローン・インデックス(パフォーミング)とは、パークレイズ社が算出する米国のバンクローン(デフォルトを除く)の値動きを示す代表的な指数です。

パークレイズ社の算出するインデックスについて

上記パークレイズ・インデックスは、パークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社(パークレイズ)が開発、算出、公表をおこなうインデックスであり当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はパークレイズに帰属します。

【米国ハイイールド社債】BofAメリルリンチ 米国ハイイールド コンストレインド インデックス

BofAメリルリンチ 米国ハイイールド コンストレインド インデックスとは、BofAメリルリンチ社が算出する米国のハイイールド債券の値動きを示す指数です。

【米ドル建てエマージング債券】JPモルガンEMBIグローバル・ダイバースファイド

JPモルガンEMBIグローバル・ダイバースファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している米ドル建ての新興国債および国債に準じる債券のパフォーマンスを表す指数で、指数構成国の債券発行残高に応じて構成比率を調整した指数です。同指数は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しております。

【米国転換社債】BofAメリルリンチ 米国転換社債 インデックス

BofAメリルリンチ 米国転換社債 インデックスとは、BofAメリルリンチ社が算出する米国の転換社債の値動きを示す指数です。

■上記は、過去の実績・状況です。本見通しなしい分析は作成時点での見解を示したものであり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。



三菱UFJ投信

バリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)【愛称:みらいの港】

<追加型投信/内外/債券>

ファンドの特色

1. 新興国を含む世界の米ドル建てを中心とする公社債等を実質的な主要投資対象とします。
●主として円建外国投資信託への投資を通じて、世界の米ドル建てを中心とする公社債等を実質的な投資を行います。また、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンド(わが国の短期公社債等に投資)への投資も行います。
2. 投資にあたっては、経済、金利および政策動向に関する見通しに基づいて、債券種別の配分比率を変更します。
3. 「為替リスク軽減型」と「為替ヘッジなし」の2つからお選びいただけます。 ※
●「為替リスク軽減型」は、原則として、投資する円建外国投資信託において、当該外国投資信託の純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行い、為替変動リスクの低減を図ります。
●「為替ヘッジなし」は、原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。
4. 「毎月決算型」は毎月6日、毎決算時(休業日の場合は翌営業日)に収益分配を行います。
●原則として、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
※「バリュー・ボンド・ファンド<為替リスク軽減型>/<為替ヘッジなし>」には、『毎月決算型』の他に、『年1回決算型』があります。
5. 投資対象とする円建外国投資信託は、パイオニア・インスティテューショナル・アセット・マネジメント・インクが運用を行います。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

※販売会社によっては、取り扱わないファンドがある場合があります。くわしくは販売会社にご確認ください。

投資リスク

■当ファンドの主なリスク

主な投資リスクとして、組入公社債の価格変動リスクや為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク等があります。



価格変動リスク

金利変動により組入公社債の価格が下落することがあります。



為替変動リスク

外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。



信用リスク

組入公社債の発行者の倒産や債務状況の悪化等の影響により組入公社債の価格が下落することがあります。

したがって、投資者のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、資金元金を割り込むことがあります。運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。投資信託は預貯金と異なります。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当資料に関するご注意事項等

■当資料はバリュー・ボンド・ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)の運用状況についてご紹介することを目的に三菱UFJ投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、勧誘を目的に作成したものではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。■当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。■投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。

お客様にご負担いただく費用

購入時	購入時手数料	購入価額×3.24%(税抜3%) (上限) 販売会社にご確認ください。
換金時	信託財産留保額	ありません。
保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額×年1.7664%(税込) 投資対象とする投資信託証券における料率を含めた実質的な料率(上限値)を算出したものです。
	その他の費用・ 手数料	売買委託手数料等、監査費用等を信託財産からご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

・お客さまにご負担いただく手数料等の合計額は、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

収益分配金に関する留意事項

■分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。■分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。■投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

<投資信託のご購入の際には、必ず最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。>

委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ投信株式会社

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社(購入・換金の取扱い等)

後記の各照会先でご確認いただけます。

設定・運用 …三菱UFJ投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会 一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

